

未来への伝承

第183回

ブックレット2

色川三郎兵衛と土浦の洪水

明治時代の土浦を振り返る

「色川三郎兵衛」の名は、土浦で生まれ育った方なら耳にしたことがあるかもしれません。「土浦郷土かるた」の一札にも「色川三郎兵衛 水の町 土浦すくった線路堤」と登場するなど、明治時代に土浦の洪水対策に尽力した人物として語り継がれてきました。

しかし、この「三郎兵衛」が江戸時代から明治時代に、土浦を代表する醤油醸造家の色川家で襲名された名前であり、広く知られている「三郎兵衛」は、明治時代に茨城県会議員や国会議員を務めた「英俊」(「えいしゅん」ともいわれている)を指していることは、あまり知られていません。

色川三郎兵衛すなわち英俊(1842~1905)は、もとの名を孝八郎といい、天保13(1842)年に屋形村(現在の千葉県山武郡横芝光町屋形)の海保家に四男として生まれました。慶応3(1867)年、26歳のとき、色川三郎兵衛(当時の当主は政吉)の養女八重子と結婚し、名を「英俊」と改め、さらに「三郎兵衛」を襲名し、色川家を継ぎました。

英俊が尽力した洪水対策の1つに、川口川閘門設置への関与が挙げられます。これは、霞ヶ浦が増水した際に門扉を閉め、町を洪水から守る仕組みを持つものでした。

また、土浦で「洪水」がたびたび起こっていたことは知っていても、桜川の氾濫のほかに、利根川の洪水が霞ヶ浦へ流れ込み、その水が町に逆流して、水害をもたらしたことを知らない方も多いのではないのでしょうか。

皆さんにご覧いただきたいのが、「土浦市立博物館ブックレット2 色川三郎兵衛と土浦の洪水」です。

本書では、英俊が関わった洪水対策が、実際はどのようなものだったのかという点に注目しています。本書を読むことで、土浦の近代を支えた人物の代表である英俊と、地域特有の災害である洪水を再認識し、災害を乗り越えてきた歴史を考えるきっかけになるのではないのでしょうか。

「ブックレット2 色川三郎兵衛と土浦の洪水」(A5判64ページ、400円)は、東櫓で購入できます。

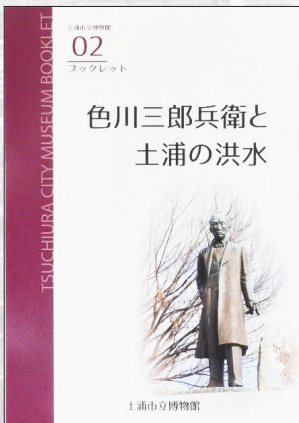
「ブックレット1 醤油のまち 土浦」(A5判72ページ、400円)も好評発売中です。

※市立博物館が休館中のため、東櫓を無料開館しています。

(東櫓開館時間：午前9時~午後4時30分)

休館日：月曜日・祝日の翌日

土浦市立博物館 ☎824・2928



「ブックレット2 色川三郎兵衛と土浦の洪水」表紙



霞ヶ浦をのぞんで立つ「色川三郎兵衛之像」と「頌徳碑」(川口二丁目)



「土浦郷土かるた」